

人と社会と自然の共生美術館

ごあいさつ

私たち2022年度前期磯野担当プロジェクト研究チームは、本学の理念を、ステッカーデザインの形で視覚的に表現し、より親しみの持てるようなものとすることを試みました。しかしその過程で、一つの壁にぶつかりました。それは、本学の理念は具体的に、何を意味するのか、です。視覚化するためには、その意味を十分に理解する必要があります。本学の理念は、「「人と社会と自然の共生」の実現に貢献する有為な人材の育成と創造的な学術研究を行うこと」ですが、ここでの「「人と社会の自然の共生」に貢献する」とは、どのようなことを意味しているのでしょうか。これはすなわち、SDGs達成に貢献することを意味する、で済むのでしょうか。しかし本学の理念は、本学の設立時（2000年）に設定されたものであり、国連サミットによるSDGs採択（2015年）よりも先です。少なくとも本学の理念は、内容的にSDGsと重なっても、SDGsを意識して設定されたものではありません。そこで私たちは、「「人と社会と自然の共生」に貢献する」の意味を理解すべく、本学開校当時の各種資料にあたり、その意味を探りました。

「環境をめぐる諸問題は、従来の学問が対象とする領域を越える複合的な問題として現れており、人と社会と自然との関係を広い視野から多角的・複合的に理解し、環境と調和した新しい社会経済システムの実現やライフスタイルの構築に創造的に取り組む人材の育成が求められている。・・（中略）・・環境問題については様々な学問分野でその解明や解決に向けた取組みがなされてきているが、従来の分野の枠組みにとらわれる傾向が見受けられ、分野間の交流や協力が大きな課題となっている。大学においても、近侍「環境」を冠する学部学科の設置が増えているが、その分野は理学、工学、農学、生活科学など各分野の研究に留まっており、人文社会科学から自然科学に至る総合的な環境科学に関する学際的な教育研究を行っている大学は、少ない状況にある。このため、21世紀最大の課題である環境の問題について、人と社会と自然の共生の理念にこれを取り込み、解決できる人材の育成と創造的な学術研究を目指して、鳥取環境大学に環境情報学部を設置し、鳥取の地域をフィールドとして活用し、地域の抱える様々な環境問題を、講義のみならずプロジェクト研究や実験・実習を通じて、人と社会と自然の関わりの中で総合的に把握する教育を行う。」（鳥取環境大学設立準備財団（2000）「鳥取環境大学設置認可申請に係る提出書類（抜刷）」）

また、本学の設立に中心的な役割を担われた初代学長の加藤尚武先生は、次のように書き留めておられます。

「私が当校の設立に際して第一に意図したことは、なるべく文理融合型の学校にしたいということでした。というのは、これからの環境問題は、理科系の専門知識だけでなく、人文・社会科学の素養を併せ持った、幅広い視点の人材が求められると思うからで・・・」（加藤尚武（2004）「環境問題と大学の役割」『PVC NEWS』51』）

すなわち誤解を恐れずに端的にまとめれば、「「人と社会と自然の共生」に貢献する有為な人材の育成」とは、環境問題の解決に求められる、人文社会科学から自然科学に至る幅広い視点を持った人材を育成することを意味するととらえることができそうです。以上の理解を持って、文理の視点をもって環境問題を解決する人材を育てる、そのような理念を、ステッカーデザインによって表現することとしました。ここではその成果をご覧ください。ただしその上で、「人と社会と自然の共生」「人文社会科学から自然科学に至る幅広い視点」の視覚的解釈は、各デザインを担当した学生によります。これら各種の個性あるステッカーデザインによって、皆さんが本学の理念の意味を改めて考えるきっかけになり、理念により親しみを持つようになれば幸いです。（磯野 誠）